



## 平成23年度 横浜国立大学 FD活動報告書

### 全学で取組むFDへ

FD推進部門長 上野 誠也

今年度のFD推進部は、2つの重点テーマを定めて教育改善の支援を行ってきた。その重点テーマとは、

①YNU initiativeの実現に向けて

②授業評価アンケートの抜本的改革

である。YNU initiativeは本学の教育方針を外部に宣言しているが、教育の実態は各教員の授業である。従って、宣言された教育方針を各教員の授業まで浸透させることが必要である。そのためには、各教員がYNU initiativeを意識し、さらにYNU initiativeに倣った授業を行っていることを目に見える形で示すことも必要である。一方、授業評価アンケートは教育の改善を目的としたツールである。教員の授業に対して、学生がどのように感じているかを授業評価アンケートは教員へ伝えている。そのアンケート結果を反映して教員が授業改善に取り組めば、質の高い教育を行うことができるサイクルが成り立つ。しかし、現状はこのサイクルが有効に展開されておらず、学生は授業評価アンケー

トが活用されていないと考えて、真面目にアンケートに回答しない傾向が見られる。この悪循環を打破するために、抜本的な改革が必要となってきた。

YNU initiativeの実現に有効なツールとして、カリキュラム・マップがある。YNU initiativeで宣言された4つの実践的「知」と各教員の授業との関係を表わした表である。今年度は教務厚生部会を中心として、カリキュラム・マップの作成を全学で実施した。FD推進部はその作成に対して、外部の情報を提供するなどの支援を担当した。外部講師を招いた講演会から始まり、カリキュラム・マップ作成担当者の部局代表者に参加を呼びかけたFD合宿研修会を開催した。合宿で実際に作業を行い、そこで得られた反省点を反映して、作業手順の見直しを行った。そして、9月15日に全学のカリキュラム・マップ作成担当者を集めて作成会を教育文化ホール大集会室で開催した。カリキュラム・マップはシラバスに記載された到達目

標を基に作成されるが、現在の到達目標は実践的「知」を意識して書かれていない。各教員へ到達目標の書き方を周知する目的で、FD ミニシンポジウムを10月から11月にかけて各部局で開催した。今年度に作成を開始したカリキュラム・マップは、各教員が目を通す段階を経て、年が明けた2月に完成となった。今後の有効な活用が期待されている。

授業評価アンケートの抜本的改革に対しては、FD 推進部会内にワーキング・グループを立ち上げて、詳細な検討を進めた。ワーキング・グループには各学部から選出された委員が含まれ、それぞれの事情を反映した検討が進められた。一方、学生がどのようにアンケートを見ているかの意見集約は、昨年度に立ち上げた教育改善学生FDグループが担当した。学生による学生へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて、FD 合宿研修会で報告があった。この内容はFD ニュースレターに掲載し、全学の教員へ発信している。ワーキング・グループの今年度における検討結果は、本活動報告書に掲

載されているので、そちらを参照していただきたい。

今年度は2つの重点テーマを掲げて、FD 推進活動を行ってきたが、昨年度に立ち上げた新しい企画を有効に活用することができた。YNU initiative の実現では、各部局へFD 推進部が訪問して開催するFD ミニシンポジウムを活用し、授業評価アンケートの抜本的改革では、教育改善学生FDグループが実態を報告する任務を行った。新企画を活用し、その新企画を育てる意味で有益な活動を行った1年であった。今年度はYNU initiative の実現の課題に見られるように、カリキュラムの検討レベルの教育改善をテーマとして扱った。教育は各教員の授業から成り立っているため、次年度は授業レベルの教育改善を重点テーマの一つとして掲げ、FD 活動を推進していくことを計画している。教育改善は各教員の改善の積み重ねで成立するものである。より魅力ある教育を横浜国立大学に展開するために、全学で取り組むFDに対して、教員の皆様方の協力を今後もお願いしたい。

## 平成23年度 FD 推進部の活動

### 研修会・カリキュラム・マップWG報告

#### 1) 初任教員研修会

**開催目的:** 初任教員研修会をまだ受けていない平成21年4月2日から平成23年4月1日までに本学および附属学校に採用された教員を対象とした研修会である。横浜国立大学の教育理念・教育目標などを踏まえて、魅力ある授業を行うための教育改善に取り組むと共に、初任教員が部局を超えて本学への帰属意識を持つきっかけになる場を設けることを目的とした。

研修は二部構成とし、第一部では学長をはじめ

とする6名の方に講演をお願いし、横浜国大の取組を紹介していただいた。第二部は大学教員と附属学校教員とを分けて実施し、大学初任教員対象の第二部をFD 推進部が担当した。

**開催日時:** 平成23年4月1日 13:00-16:00

**開催場所:** 教育文化ホール中集会室他

**参加者数:** 60名

**プログラム:**

[第一部] (全体で実施)

大学の概況について・・・ 鈴木邦雄学長  
 本学の研究について・・・ 國分泰雄理事

本学の教育について・・・ 溝口周二理事  
本学の教育研究評価について・・・ 山田 均副学長  
情報セキュリティについて・・・ 大山 力情報基盤センター長  
就業規則等について・・・ 三瓶 泉人事・労務課長



鈴木学長の話を聴く初任教員

[第二部] (大学初任教員対象)  
大学教育総合センターとは・・・ 高木まさき大学教育総合センター長  
FD とは・・・ 上野誠也 FD 推進部門長  
授業コンサルテーションの紹介・・・ 安野舞子 FD 推進部講師  
魅力ある授業へ向けて[ワークショップ]・・・ FD 推進部



ワークショップ発表の風景

[第二部] (附属学校初任教員対象)  
附属学校初任教員研修会・・・ 教育人間科学部にて実施

**成果と課題:** 横浜国立大学を知る機会を提供するだけでなく、新任教員にとって他部局あるいは他附属学校の教員と接する場としても有効であった。

第二部は2グループに分けて実施する方式を今年度も採用した。FD 推進部は大学教員のみを対象としたグループを担当し、講演会およびワークショップを実施した。ワークショップは、「魅力ある授業に向けて」というテーマに対してグループで議論を進めた。職種などでグループを分け、同じような立場の新規に採用された教員間で様々な意見交換ができて、効果的であった。

## 2) TA 研修会

**開催目的:** 担当教員の自主的な判断に任せられている TA (ティーチング・アシスタント) の導入教育を実施した。受講学生の履修を援助する技術を高めることを目的とした。今年度も、実験・演習担当と講義・ゼミ担当とに分けて、実施した。TA の確定時期と作業の開始時期を考慮し、2グループに分ける必要があるが、研修内容はほぼ同じとした。



TA 研修会「実験・演習担当」

[実験・演習担当]

開催日時：平成23年4月13日 16:20-17:40

開催場所：理工学部事務棟第1会議室

参加者数：70名

[講義・ゼミ担当]



**TA研修会「講義・ゼミ担当」**

開催日時：平成23年6月2日 16:20-17:40

開催場所：教育人間科学部事務棟2階会議室

参加者数：20名

プログラム：(両担当とも共通)

TAの役割と責任・・・

上野誠也 FD推進部門長

TA実践ワークショップ・・・ FD推進部

TA経験者インタビュー・・・

安野舞子 FD推進部講師

質疑応答・・・ 上野誠也 FD推進部門長

**成果と課題**：平成21年12月に外部の講師を招いて実施したTA研修会の形式を引き継いだ内容をFD推進部が講師も担当するようになり2年目を迎えた。自由参加型の研修会としたが、実験・演習担当には70名、講義・ゼミ担当には20名の参加者があった。特に、講義・ゼミ担当は学生がTAを担当することが決まってから研修会までの時間が少ないことから、昨年よりかは参加者は増えたが、まだ少ない結果となった。

終了後のアンケートを見ると、初めてTAを担当する学生にとって、不安を解消する機会となっ

たというコメントがみられ、成果はあったと考えられる。

**3) FD ミニシンポジウム**

**開催目的**：昨年度からFD推進部では、各部局の教授会の前などに30分程度の時間を利用して、FDミニシンポジウムを開催することを企画・実施した。今年度は全学的に進められているカリキュラム・マップに関連して、YNU initiative に掲げられている4つの実践的「知」を意識して、各教員がシラバスの到達目標を書くこと周知するために実施した。テーマは「シラバスから教育の質保証へーカリキュラム・マップの作成と活用ー」とした。対象としているシラバスが学部であるために、学部を中心として開催した。

[経営学部]

開催日時：平成23年10月3日 13:00-13:30

開催日時：経営学部大会議室

[教育人間科学部]

開催日時：平成23年10月5日 14:45-15:15

開催日時：教育人間科学部事務棟大会議室

[経済学部]

開催日時：平成23年11月7日 12:20-12:50

開催日時：経済学部会議室

[留学生センター]

開催日時：平成23年11月8日 14:45-15:15

開催日時：留学生センター会議室

[理工学部]

開催日時：平成23年11月14日 13:00-13:30

開催日時：理工学部第一会議室

**プログラム：(各部局共通)**

講演「カリキュラム・マップと到達目標」

・・・15分

ワークショップ「実践的「知」を意識して到達目

標を書いてみよう」・・・10分

講演「到達目標から得られるもの」・・・5分

**成果と課題：**FD ミニシンポジウムは教員が参加しやすい時間と場所を選んでいるので、多くの教員が参加でき、効果的である。今回のテーマのように全教員が知らなくてはいけないことを周知するには適した企画である。今後もFD ミニシンポジウムを通して、FD 活動を全学的に広めていく方針である。

#### 4) FD シンポジウム

**開催目的：**急速に変化する社会状況を受けて、大学の教育もその変化に対応できる人材を育成することが求められている。従来の学習者が受身となる受動型授業から学習者が積極的に動く能動型授業への変化が必要となった。今年度のFD シンポジウムは能動型授業全般を指す「アクティブ・ラーニング」をテーマとして、外部の講師を招いて実施した。また、新たな試みとして、学生や職員の聴講も認め、FD推進部が教員と併せた三位一体の教育改革を目指す姿勢を表した。



講演中の溝上慎一先生

**開催日時：**平成 23 年 11 月 22 日 13:20-17:00

**開催場所：**理工学部第一会議室

**参加者数：**20 人

**プログラム：**

挨拶 …… 溝口周二副学長・教育担当理事  
第1部 招待講演「大学に相応しい「知」にこだわったアクティブ・ラーニング型授業とは何

か」…… 京都大学高等教育研究開発センター

溝上慎一准教授

第2部 アクティブ・ラーニングの実践報告

…… 教育人間科学部 有元典文教授

…… 都市イノベーション研究院 谷和夫教授

第3部 アクティブ・ラーニングの実習

…… 大学教育総合センターFD 推進部



教職学が一体となったワークショップ

**成果と課題：**アクティブ・ラーニングは今後の大学教育に必要なことであり、大学教育の中で失ってはいけない内容を維持しながら導入しなければならない。その問題点を外部講師から指摘され、形式的な導入だけでなく、内容的な導入を志すことが明確になった。次年度のFD 推進部のテーマとしても取り上げる価値があると判断している。参加者が少なかったことが課題として挙げられ、次年度は参加者増員のための積極的な広報活動を展開する必要がある。

#### 合宿研修会WG報告

##### 平成 23 年度合宿研修会の実施状況

「学内の人的資源を発掘し、ファカルティ・デベロッパー (FDer) の役割を担うリーダーの育成を目指す。」ことを目的として、平成 23 年 8 月 30 日 (火) から 31 日 (水) にかけて八王子

セミナーハウスにおいて実施した。

平成23年度におけるFD推進部の重点項目である「授業評価アンケートの抜本的な見直し」と「カリキュラム・マップの作成に向けて」を2つの柱として今回の合宿研修を実施した。特に本年の研修会は9月15日のカリキュラム・マップ作成WGの開催を直前に控えて、その推進役である実質的なFDerを養成するという、極めて実務的な側面を含む研修会であった。

また、授業評価アンケート、カリキュラム・マップが相互に関連しながら横浜国立大学の教育の質の向上を目指すとりかかりとしての意味もあった。

さらに、学生FDスタッフが学生の視点で参加した。27名の教職員の参加者に加え、3名の学生FDスタッフ、溝口周二理事、高木まさき大学教育総合センター長が参加した。

## 平成23年度合宿研修日程とプログラム

8月30日(火)

開会の挨拶：理事 溝口 周二

FD推進部門長 上野誠也

テーマ：授業評価アンケートを抜本的に見直す

### I-①「授業評価アンケートの多面的分析」※

大学院工学研究院 竹村 泰司※

平成22年度学内重点化競争的経費事業 共同研究者 森下 信、鈴木 和也、細田 暁、武田 淳

### I-②「授業評価アンケートの見直し案」

FD推進部 安野舞子

### I-③「学生から見た授業評価アンケート」

学生FDグループ

質疑応答

### I-④：グループディスカッション・全体討論

8月31日(水)

テーマ：カリキュラム・マップの作成に向けて

### II-①「カリキュラム・マップの構築に向けて」

FD推進委員長 上野誠也

### II-②「学部におけるカリキュラム・マップの当てはめ作業」(ワーク)

### II-③「カリキュラム・マップの活用ビジョン」

FD推進委員長 上野誠也

### II-④「学部におけるカリキュラム・マップの相互評価」(ワーク)

閉会の挨拶：理事 溝口 周二



合宿の様子

## 学生参加型FDWG活動報告

平成22年9月30日に発足した学生FDグループと共に下記の活動を行った。なお、発足当時は、第1期学生FDスタッフの任期を本年度春学期終了時までとしていたが、「学生・教職員合同会議」において第2期学生FDスタッフの募集を平成24年4月に行うことに決定したため、代替わりをするまでは希望者でスタッフを継続することとした。

### 1) 学生・教職員合同会議

月1回開催する学生・教職員合同会議は、平成23年4月から平成24年1月までに計6回開催された。各会議での主な議題は下記の通り：

第5回(4月27日)：活動形態の改善について／代表職の交代について／FD推進部から学生

FDグループへの提案について

第6回(5月25日):第2期スタッフの募集について/FD合宿研修会への学生FDグループの参加について/Web 試行版・授業評価アンケートの質問項目について

第7回(6月29日):第2期スタッフの募集について/HP開設について/FD合宿研修会での発表について/立命館大学での学生FDサミットへの参加について

第8回(7月20日):学生FDグループからの諸提案に対するFD推進部会からの回答について/学内イベント提案について/臨時スタッフ募集提案について

第9回(11月8日):12月1日イベントの進捗状況について/学生 e ポートフォリオについて /「目安箱」システムの構築について

第10回(1月11日):学生FDサミット、学生FD NEXT 1について/学生 e ポートフォリオについて/FD推進部会での授業評価アンケートの見直し審議経過について/臨時スタッフの第2期スタッフ昇格にあたっての小論文執筆について

## 2) 学生FDグループ主催イベント「しゃべり場」の開催



学生FDグループ作成した「しゃべり場」ポスター

学生FDグループが自ら企画・運営する初のイベント・「しゃべり場」を12月1日に開催した。テーマを「授業評価アンケート革命」と掲げ、学生・教職員合同のグループを4つ作り、各グループで活発な議論を行った。参加者は、学生11名、

教員13名、職員9名の計33名であった。なお、本「しゃべり場」に参加した1年生3名を含む計4名が「臨時学生FDスタッフ」となり、第2期スタッフを募集するまでの間、一緒に活動することになった。

## 3) 他大学企画等への参加実績

昨年度に引き続き、本年度も「学内重点化競争的経費」より学生FDグループの活動に対する予算を配分していただいた。その予算を使い、他大学での教育改善に関する学生交流イベントや、FD推進部主催のFD合宿研修会に学生FDスタッフを派遣した:

1. 学生FDサミット・2011 夏@立命館大学  
平成23年8月27、28日(土、日)  
学生FDスタッフ参加者 4名
2. FD合宿研修会@八王子大学セミナーハウス  
平成23年8月30日(火)  
学生FDスタッフ参加者 3名  
※FD推進部主催の合宿
3. 学生FDサミット・2012 冬@追手門学院大学  
平成24年2月25、26日(土、日)  
学生FDスタッフ参加者 4名(内3名は臨時スタッフ)

## 授業改善WG活動報告

### 1) 学生による授業評価アンケート

本年度のFD推進部の活動方針の柱の一つが「授業評価アンケートの抜本的改革」であったため、WG内で集中的に見直し作業を行った。

春学期は、授業評価アンケートのWeb化の可能性を探るため、FD推進部会委員の協力を得て6月8日(水)~22日(水)の2週間にわたり6教員8科目でWeb版授業評価アンケートを試行した。今回のWeb試行の大きな目的は回収率を見ることであったが、結果は全体平均が7.9%と

かなり低い数値であった。低回答率の大きな原因は、授業時間外に行うこと、そしてパソコンからしか回答ができない(携帯電話やスマートフォンからは不可)ことが考えられる。この結果を受けて、授業評価アンケートの Web 化については、今後慎重に議論する必要がある、との結論に至った。

秋学期は、授業評価アンケートの見直し論点を下記の通り設定し、WG内で審議して見直し案を練ってはFD推進部会で議案提起する、ということは何度か繰り返した：

- ・名称
- ・実施時期・方法
- ・記名制
- ・アンケート結果の開示
- ・アンケート結果に対するフィードバック
- ・アンケートの質問項目
- ・自己点検票

その結果、名称については、「アンケートは学生に授業を『評価』してもらうことが目的ではなく、授業の『改善』のために行っている」ということから、従来の「学生による授業評価アンケート」を改め「学生による授業アンケート」とすることに決定した(「評価」という言葉を削除)。

それ以外の項目については、もう1年度かけてじっくり議論し検討することとなった。

## 2) アンケート結果に基づく自己点検票の作成

授業評価アンケートの実施からアンケート集計結果の受領、そして自己点検票の作成までを個々の教員にとっての一連の授業改善活動としているが、自己点検票の提出率の低さが数年来の課題であった。そこで、作成の負担をできるだけ軽減するために、既存の記述項目を精査して必要最低限の項目数まで減らし、自己点検票のフォーマットを添付して全対象教員に作成依頼のメールを送信した。しかし、春学期分の提出率は26%

であり、従来の数値とほとんど変わらなかった(本稿執筆現在、秋学期分の提出率はまだ出ていない)。

なお、提出された自己点検票は、例年通り大学教育総合センターのホームページ上にて学内限定で次年度公開される予定である。

## 3) 授業コンサルテーション

昨年度は試行段階であった授業コンサルテーションを、本年度は本格実施すべく、4月上旬に行われた初任教員研修会で本コンサルテーションの紹介を行った。その後に行ったアンケートでは、8名の初任の先生方に関心をお持ちいただいたことが分かったが(希望される先生にはメールアドレスも書いていただいた)、春学期は東日本大震災の影響で授業がシラバス通りに運営できない困難さがあったため、秋学期にコンサルテーションをご希望いただいた先生方に案内メールを送信した。その結果、2名の先生から返信があったが、その内1名の先生は諸般の事情により来年度行うことになり、1名の先生の授業でコンサルテーションを行った。その他、教育人間科学部の先生からも依頼を受け、今年度は2名の先生に対しコンサルテーションを実施した。

## FDニュースレターWG活動報告

年に4回発行される定期刊行物のFDニュースレターは、平成23年度からインターネット上で公開されるウェブ版と印刷物である紙媒体版の2本立てとした。紙媒体版はウェブ版に掲載された記事の要約を集めた4ページの印刷冊子である。その他に、前年度の授業評価アンケートの結果の分析を載せた特別号と年度末に発行する活動報告書を印刷物として発行している。今年度に発行されFDニュースレターは以下の記事内容

であった。頁数はウェブ版の頁数を表わしており、  
[]内の頁数が紙媒体版の頁数である。尚、最後の  
活動報告書は本号を指している。

**1) 第 16 号 (2011 年 7 月発行、15 頁[4 頁])**

- (1) 平成 23 年度 FD 推進部活動方針
- (2) FD 講演会「教育の質保証とカリキュラム・マ  
ップ」
- (3) 平成 23 年度横浜国立大学初任教員研修会報  
告
- (4) 平成 23 年度 TA 研修会報告
- (5) YNU initiative の実現に向けたカリキュラム・  
マップ
- (6) 経営学部 FD 活動報告「アカデミック・トー  
ク」
- (7) FD セミナー「学士課程教育の達成目標と現実  
策」

**2) 第 17 号 (2011 年 10 月発行、19 頁[4 頁])**

- (1) 平成 23 年度 FD 合宿研修会特集  
FD 合宿研修会の目的／授業評価アンケート：  
多目的分析とディスカッション／授業評価ア  
ンケートの見直し案／学生の立場から見た授  
業評価アンケート／実践的「知」の具現化に向  
けて—カリキュラム・マップ作成実習—／参加  
者アンケート
- (2) 大学教育学会第 33 回大会ラウンドテーブル  
「学生と進める FD」

**3) 特別号「平成 22 年度授業評価アンケート実施  
状況・分析」(2011 年 11 月発行、—[12 頁])**

平成 22 年度 (前期・後期) の実施状況／受講  
者人数別分析／クロス集計結果／まとめ

**4) 第 18 号 (2011 年 12 月発行、18 頁[4 頁])**

- (1) FD シンポジウム「学生の自らの思考を促すア  
クティブ・ラーニング」特集  
招待講演「大学にふさわしい「知」にこだわっ  
たアクティブ・ラーニング型授業とは何か」  
アクティブ・ラーニングの実践報告／アクティ  
ブ・ラーニングの実習と総括
- (2) FD ミニシンポジウム「シラバスから教育の質

保証へ—カリキュラム・マップの作成と活用  
—」

- (3) 法政大学第 9 回 FD シンポジウム「本当に必  
要な FD 活動とは—実質化のための支援・教  
育評価—」
- (4) 各部局 FD 活動報告  
環境情報学府／留学生センター
- (5) 学生 FD サミット 2011 夏—大学を変える、学  
生が変わる—

**5) 第 19 号 (2012 年 3 月発行、18 頁[4 頁])**

- (1) 授業評価アンケートの改善提案
- (2) 公開授業の実施状況と改善提案
- (3) 各部局の FD 活動  
国際社会科学部研究科／都市イノベーション学  
府／教育人間科学部／経済学部／工学部
- (4) 学生 FD スタッフのページ

**6) 特別号 (2012 年 3 月発行、平成 23 年度 FD  
推進部会活動報告書、12 頁[12 頁])**

- (1) 全学を挙げての FD 活動の動き
- (2) 研修会・シンポジウム WG 活動報告
- (3) 合宿研修会 WG 活動報告
- (4) 学生参加型 FDWG 活動報告
- (5) FD ニュースレターWG 活動報告
- (6) 公開授業 WG 活動報告
- (7) 授業改善 WG 活動報告
- (8) 外部セミナー参加実績記録
- (9) FD 推進部会開催記録／委員名簿

**公開授業WG活動報告**

本年度、春・秋学期に開講された公開授業の概  
要について報告する。

**春学期の公開授業の科目と実施日時 (11 回)**

- ・「行動科学」 村本 由紀子 教授  
6 月 14 日 (火) 6 限 経営学部講義棟 (B 棟)  
207 教室

- ・「デジタル信号処理」 市毛 弘一 准教授  
6月24日(金)3限 工学部講義棟 A201 教室
  - ・「リスク分析学」 三宅 淳巳 教授  
6月27日(月)2限 工学部講義棟 A104 教室
  - ・「地盤工学」 谷 和夫 教授  
6月28日(火)3限 工学部講義棟 A109 教室
  - ・「日本語 J201」 小川 誉子美 教授  
6月29日(水)1~2限 留学生センター104 教室
  - ・「環境有機化学」 大谷 裕之 教授  
6月29日(水)3限 教育人間科学部 7号館 201 教室
  - ・「産業組織論」 中嶋 亮 准教授  
6月30日(木)4限 経済学部講義棟 212 教室
  - ・「流体力学 I」 松本 裕昭 教授  
7月6日(水)4限 工学部講義棟 A110 教室
  - ・「マーケティング論 I」 鶴見 裕之 准教授  
7月8日(金)6限 経営学部講義棟 (B棟) 105 教室
  - ・「中等保健体育科教育法」 落合 優 教授  
7月12日(火)2限 教育人間科学部 7号館 201 教室
  - ・「インベスティゲーション実習」 武田 淳 教授  
7月21日(木)3限 総合研究棟ロビー/2階 知物会議室
- 秋学期の公開授業の科目と実施日時 (6回)**
- ・「自然地理学 『火山の話』」 吉田圭一郎 准教授  
11月15日(火)4限 教育人間科学部講義棟

- 7号館 201 教室
- ・「地方財政」 伊集守直 准教授  
11月16日(水)3限 経済学部講義棟 2号館 211 教室
- ・「知財経営論 II」 岡田依里 教授  
11月16日(水)3限 経営学部講義棟 2号館 106 教室
- ・「材料力学 A」 高橋宏治 准教授  
11月25日(金)1限 工学部講義等 A110 教室
- ・「行政法 II」 廣田達人 准教授  
11月29日(火)4限 経済学部講義棟 1号館 201 教室
- ・「国民会計論 II」 大森 明 准教授  
12月1日(木)4限 経営学部講義棟 2号館 208 教室



公開授業の様子

ご多忙にも関わらず、ご協力頂きました先生方に御礼申し上げます。また来年度には、春・秋学期それぞれの学期で公開される授業を、初任教員の研修としての場、各教員、学生 FD スタッフ、職員の研修の場として活用され継続される予定である。



## 学外シンポジウム等参加実績

学外で開催された FD 推進に関するシンポジウムや講演会、または、教育プログラムの成果報告会に FD 推進部会委員や職員が積極的に参加し、情報を収集した。収集された情報は FD ニュースレターを通して本学教員へ伝えられた。以下の表は参加実績の一部を示している。なお、参加数欄の [ ]内は学生 FD スタッフの参加数であり、外数として記載した。

シンポジウム等の名称	開催日	開催地	参加数
大学教育学会 第 34 回大会「転換期の大学教育」	2011/6/4-5	東京	2
学生 FD サミット・2011 夏	2011/8/28-29	京都	1[4]
関東圏学生 FD 連絡会	2011/9/16	東京	2
大阪市立大学第 18 回教育改革シンポジウム「研究大学における教育・学習環境の構築—筑波大学の事例に見る学部教育と大学院教育のシナジー」	2011/9/29	大阪	1
法政大学 FD フォーラム「eポートフォリオの活用方法—実践的取り組み—」	2011/12/10	東京	3
金沢大学シンポジウム「日本の未来を担う人材育成・教育改革モデルの構築」	2011/12/20	東京	2
立命館大学 2011 年度第 3 回教学実践フォーラム 教学 IR 国際セミナー「教学改善と IR」	2012/1/21	京都	1
大学コンソーシアム京都「IR と教育改善～オーストラリアの事例から学ぶ～」	2012/1/27	京都	1
関西大学「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開」最終報告会	2012/1/28	大阪	1
第 83 回公開研究会「大学教育におけるポートフォリオの活用—授業改善からカリキュラム改善へ—」	2012/2/12	京都	1
金沢大学訪問調査（大学教育開発支援センター、情報メディア基盤センター、FD・ICT 教育推進室、地域創造学類）	2012/2/21	金沢	3
IDE 高等教育研究フォーラム「大学教育のアウトカム評価-国際的趨勢と日本の課題」	2012/2/22	東京	1
学生 FD サミット 2012 冬	2012/2/25-26	茨木	1[4]
同志社大学高等教育・学生研究センター 第 2 回 国際ラウンドテーブル「高等教育の質とは：グローバル化時代における高等教育をめぐる様々な動向に対応するために」	2012/2/27-28	京都	1
大学コンソーシアム京都第 17 回 FD フォーラム「大学におけるキャリア教育を考える ～企業が求める人材って、大学で育成しないとだめ？～」	2012/3/3-4	京都	1
学生 FD NEXT-1（関東圏 FD 学生連絡会）	2012/3/10	東京	2[3]
第 18 回 大学教育研究フォーラム	2012/3/15-16	京都	3

## 平成23年度FD推進部会開催記録

No.	開催日時	議題
1	平成23年5月13日(金) 16:15-18:30	平成22年度事業報告／平成23年度事業計画／役割分担／TA研修会—講義担当—の実施／春学期授業評価アンケート／FDニュースレター第16号／など
2	平成23年6月14日(火) 16:15-17:20	役割分担／春学期授業評価アンケート／FD合宿研修会／春学期公開授業／など
3	平成23年7月12日(火) 16:15-17:40	FD合宿研修会／学生FDグループからの提案／授業評価アンケート／FDニュースレター第17号／など
4	平成23年9月13日(火) 12:00-12:45	FDミニシンポジウム／FDシンポジウム／秋学期公開授業／など
5	平成23年10月18日(火) 12:10-12:45	FDシンポジウム／FDニュースレター第18号／秋学期の公開授業／学生FDグループによるイベントの開催／など
6	平成23年11月21日(月) 10:45-11:50	秋学期授業評価アンケート／卒業時アンケート／FDニュースレター第18号／など
7	平成23年12月22日(木) 9:30-10:30	公開授業の改善／秋学期授業評価アンケート／授業評価アンケートの抜本的改革／卒業時アンケート／など
8	平成24年1月23日(月) 9:30-10:20	FDニュースレター計画・執筆依頼／公開授業に関する改善／など
9	平成24年2月28日(火) 9:00-10:15	平成24年度初任教員研修会／公開授業の改善／授業評価アンケートの改善／など
10	平成24年3月22日(木) 14:40-16:10	授業評価アンケートの抜本的改革／TA研修会—実験・演習担当—の開催／次年度引継事項／など

## 平成23年度FD推進部会委員

部門長・兼務教員	上野誠也	国際社会科学研究所	関ふ佐子
兼務教員	物部博文	工学部	眞田一志
専任教員	安野舞子	環境情報研究院	岡 泰資
教育人間科学部	赤木範陸	都市イノベーション研究院	谷 和夫
経済学部	邊 英治	留学生センター	小川誉子美
経営学部	柴田裕通		

### YNU FDニュースレター 特別号

#### 平成23年度横浜国立大学FD活動報告書FD

編集／横浜国立大学 大学教育総合センターFD推進部

作成担当：ニュースレター・ワーキンググループ

事務担当：教務課大学教育係

問合せ先：[kyomu.kyouiku@ynu.ac.jp](mailto:kyomu.kyouiku@ynu.ac.jp)

発行／平成24年3月

※ご意見・ご感想がありましたら、上記宛までお寄せ下さい。